

米の値段と景気をめぐって 大宮町の横山さんの 仮説からすると…

もう3年か4年前でしょうか、農民連の会員で、大きく稲作に取り組んでいる大宮町の横山さんが、

「米の値段が安くなったから日本の景気は悪くなった」と、自説を展開していました。

理論的な説得力はともかくとしても、なるほど時系列的には付合するなあと、そのときは聞きました。

で、昨年。不作の影響もあり、じつは大手米卸の価格操作によることも大きいのですが、米の値段が

上昇しました。

そしたら偶然の一致か、昨年あたりから景気の底打ちと回復が報じられるようになりました。庶民の実感とはもかく、自民党などは先の参院選でも景気回復を宣伝していたのは記憶に新しいところです。

まるで横山仮説を裏付けるような米価と景気の動きだったわけです。そして今年、一転して米価は暴落。さて、上向きが伝えられる景気ですが、これからの動向やいかに!?



侵入者

これまでも、卵の殻が近くの畑に散らばっていて、カラスの仕業だと近所の人には言われていました。入る隙間はないはずだとタカをくくっていたのですが、ついに現行犯逮捕!にいたりました。

鶏舎の隙間から入ってくるずうずうしさです。そして、しみじみ見ると、すごいクチバシではあります。

侵入者といえば、ネズミ。このごろは大胆になって、ヒヨコを襲います。ネコのように一晩でヒヨコ全滅などという遅い方はしないのですが、毎晩数羽ずつの被害で、つい発見が遅れがちになります。



(続報) 2つの請願

農民連が市町村に米価暴落と牛肉輸入に関する2つの請願を出したことを前に紹介しました。十王町と北茨城市の議会での審議結果が判明しています。

十王町では、両請願とも「採択」となりました。紹介議員となった根本さんのHPから下記、転載します。

農民連から提出されていた「政府米の買い入れと備蓄を充実させる意見書提出を求める請願」と「アメリカ産牛肉の輸入解禁に反対する意見書提出を求める請願」の2つの請願が採択された。

「政府米の買い入れと、備蓄を充実させる意見書提出を求める請願」では、意見書(案)を読み上げるとともに、次のことを紹介した。

“…ちなみに今年の米価は、仮渡し金で1袋(30kg)5760円、1俵1万1520円であり、以前に比べ半値になっています。1反歩8俵とれたにして、9万2160円であり、生産費の14万2494円を大きく割

り込んでしまうものです。つくればつくつただけ赤字が増えることになります。”

採決では、賛成多数で採択された。1人だけ反対した公明党の小泉議員に対し「何でなんだ」との声が出た。

また、「アメリカ産牛肉の輸入解禁に反対する意見書提出を求める請願」では、特に消費者の安全の問題を強調した。この請願は、全員賛成で採択された。

いっぽう北茨城市では、委員会での審議にあたり、紹介議員の傍聴が許可されませんでした。そして、結果は両請願とも「継続審査」。

ちなみに米価暴落対策は、まさに緊急を要する課題です。また牛肉輸入をめぐっては、米国の圧力でこの秋にも政府は妥協をしまいかね

ない情勢で、今議会での対応こそが注目されました。

地域の稲作などつぶれてもいい、あるいはBSE牛肉を輸入してもいいというなら、堂々と「不採択」にすればいい。そうではないが農民連の請願には問題があるというのなら、何らかの策を講じてしかるべきでしょう。ところがそれもなし。

いわば思考停止だよねえ。恥しらずという罵倒は我慢するけど、地域農業の危機と牛肉の安全に関する緊急の課題に対して、地方議会として何らの意思も示さないことになったわけで、委員会傍聴の不許可とあわせ、非常に理解に苦しむ対応ではあります。